

巻頭
言

鎮魂歌



| 会長 山崎 學

親友の安倍晋三君が突然凶弾に倒れた。とてもとても悲しいし、とてもとても悔しい。憲法改正をはじめとして、今まで歴代内閣総理大臣が成し遂げられなかった政治課題を残したまま旅立ってしまった。誰からも愛され、気さくで、おちゃめで、人を楽しませることに気を配っていた彼はもういない。

晋三君との出会いは二十数年前である。ある朝食会の講師として招かれてきた彼の講演を聴いてすっかり魅了された。当時の彼は肩書はなかったが、自民党内で若手のホープとして期待されていた。帰り際に一週間以内に後援会を立ち上げたいと彼に伝えた。そして日本精神科病院協会会員名簿を見ながら、志を同じくすると思われる先生に直接電話して後援会入会のお願いをした。その日のうちに50名の先生に賛同をいただき、翌日に会則・名簿を作り、夕方、彼に電話でその旨を報告して驚かれた。以来、彼は官房副長官、幹事長、官房長官を歴任して52歳という若さで内閣総理大臣に就任した。しかし若さに任せてエネルギーに働きすぎて持病の潰瘍性大腸炎が悪化して辞任に追い込まれた。彼は好物の焼肉もほとんど食べられないくらい憔悴きっていた。その姿を見て支援者の7割は彼の元から去っていったと、後に彼自身から聞いた。日精協の後援会も3割は脱落した。しかし、新たなメンバーを加えて、病魔に苦しんでいた彼を支え続けた。新薬のおかげで潰瘍性大腸炎も回復に向かい、焼き肉屋でも自ら焼肉を焼いてくれ、軽井沢でゴルフができるまでに回復した。最悪な時期に支え続けた日精協に対して彼の信頼は大きなものになった。その一方で、マスコミは欲得なく人を支え続けたことがないのか、得意の政治力を使って利益誘導をしている団体というレッテルを日精協に貼って報道した。個人用にFacebookに貼ってあった彼と肩を組んで笑っている写真が一般紙に無断掲載され、そこにはいわくありげな記事が添えられるのが常になった。

再び総理大臣に就任した後、彼はマスコミによるバッシングにもめげずに集団的自衛権の憲法解釈変更で丸腰武装論から自衛隊を解放し、積極的な外交によってトランプ、メルケル両氏から絶大な信用を得て、歴代の総理大臣が成し得なかったG7のセンターを仕切る政治家に成長し、歴代総理大臣在任期間を更新した。「好事魔多し」の例えにあるように、武漢発の新型コロナウイルス感染症が日本に襲い掛かった。世界中が混乱する中、感染者の増加はマスコミの煽りを受けて国民にパニックをもたらし、モリカケ、桜を見る会問題に対する野党の執拗な追及も相まって持病の潰瘍性大腸炎が悪化し、再び彼は辞任に追い込まれた。菅内閣の迅速な対応で新型コロナウイルス感染症は収束を見せたが、煽りの体質が抜けないマスコミによって菅内閣は退陣させられ、岸田内閣が誕生し参議院選挙に突入した。

そして7月8日、選挙応援中の大和西大寺の駅頭で暴漢の凶弾に倒れ、帰らぬ人になってしまった。6月9日に会って9月にゴルフの約束をしたのが彼との最後の会話になった。この原稿を

書いている今日、彼は茶毘に付された。今頃、天国で父親に再会し久しぶりの親子の会話に花を咲かせているのだろうか。

長い付き合いの中で彼が愚痴を聞いてくれたことがある。医学教育制度と「酷試」と称された医師国家試験改革であった。3日間500問という国試に備えて医学部6年がその対策に追われて臨床から遠ざかっている現状を説明したところ、官邸内にワーキングチームを設置してくれた。医学部国試対策担当教授6名に参加してもらい、文科省、厚労省、試験センターからヒアリングを行い、現在の2日間400問に改善し、初期臨床研修制度の見直しと医学部5、6年を新しいシステムの中でシームレスにする改革案が進行している。

銃撃実行犯と統一教会との関係について、教団の靈感商法をはじめとした強引な集金方法によって実行犯の生活が破綻した経緯などが連日報道されている。自称専門家は診察もしないで彼の精神病理をえぐり出し、得々と解説する。宗教と布施の関係は古今東西カソリックの免罪符に始まり、我が国でも創価学会の「財務」をはじめとして新興宗教で広く行われているはずである。かつて統一教会系の国際勝共連合は巧みに国会議員事務所に入り込み、都道府県支部組織においては潜入作戦ではなく、支部組織幹部を洗脳し、自民党組織自体に食い込んでいると聞く。こうした経緯が謎解きされると竹島問題、従軍慰安婦・徴用工問題に対してなぜ歴代政府が驚くほど弱腰だったのが理解できる。このような韓国による思想洗脳に加えて、中国による思想洗脳も国会議員、マスコミを含めてかなり前から行われている気がする。憲法改正、原発再開、防衛費足かせ問題、非核三原則堅持といった国力弱体化を狙った外国に日本人の魂を売った輩がかなりの数になっているのではないかと危惧している。仮にロシア、中国に我が国の領土が侵略された時に行われるのは民族浄化、宗教浄化、シベリア送りである。中国に親和政策をとり、憲法改正にブレーキをかけている創価学会は最初に思想矯正所送りにされると気付くべきである。なぜなら偉大な？共産主義という宗教にとってはほかの宗教は必要なく、チベット、ウイグルの例を見ても、西欧諸国が非難するように民族浄化を含めて国家自体を消滅させることがその目的なのである。ウイグル、ミャンマーで行われている民族浄化はウクライナ紛争と同時進行中なのに日本のマスコミは驚くほど沈黙を守って報道しない。

年上の石原慎太郎氏はまだしも15歳年下の晋三君の死はたまらない。先日石原慎太郎氏の新刊本を読んでいて、死を前にした彼の死生観に共感している自分に気が付いた。死ぬことは新しい未来に対する期待に満ちているのだろうか。

あの世で晋三君とゴルフ談議ができる日を楽しみにしている。

合掌